

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年3月27日

【事業年度】 第54期(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

【会社名】 株式会社大塚商会

【英訳名】 OTSUKA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大塚 裕司

【本店の所在の場所】 東京都千代田区飯田橋二丁目18番4号

【電話番号】 03(3264)7111

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 経営管理本部長 若松 康博

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区飯田橋二丁目18番4号

【電話番号】 03(3264)7111

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 経営管理本部長 若松 康博

【縦覧に供する場所】 株式会社大塚商会 関西支社
(大阪市福島区福島六丁目14番1号)

株式会社大塚商会 神奈川営業部
(横浜市神奈川区金港町3番地3)

株式会社大塚商会 京葉営業部
(千葉県船橋市葛飾町二丁目340番)

株式会社大塚商会 北関東営業部
(さいたま市中央区上落合八丁目1番19号)

株式会社大塚商会 神戸支店
(神戸市中央区磯上通八丁目3番5号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月	平成25年12月	平成26年12月
売上高 (百万円)	463,493	478,215	515,771	564,595	605,766
経常利益 (百万円)	19,508	23,315	29,079	33,505	38,144
当期純利益 (百万円)	10,631	12,744	16,277	20,271	23,455
包括利益 (百万円)		12,745	16,873	22,158	24,612
純資産額 (百万円)	108,931	117,385	129,268	145,066	164,347
総資産額 (百万円)	213,401	229,610	253,158	279,589	305,513
1株当たり純資産額 (円)	3,425.67	3,690.81	4,065.43	1,520.53	1,722.31
1株当たり 当期純利益金額 (円)	336.42	403.28	515.11	213.83	247.41
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)	336.28	403.10			
自己資本比率 (%)	50.7	50.8	50.7	51.6	53.4
自己資本利益率 (%)	10.1	11.3	13.3	14.9	15.3
株価収益率 (倍)	16.5	13.1	12.7	20.9	15.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	17,851	23,158	25,879	18,780	34,130
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,527	4,604	4,894	3,468	5,410
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,205	4,229	5,190	6,561	7,580
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	37,924	52,320	68,113	76,863	97,943
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	8,240 (1,093)	8,185 (1,102)	8,103 (1,127)	8,108 (1,143)	8,236 (1,230)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第52期、第53期及び第54期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は、平成26年7月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。そのため、第53期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月		平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月	平成25年12月	平成26年12月
売上高	(百万円)	432,919	444,625	474,259	521,623	558,450
経常利益	(百万円)	18,282	21,628	26,053	31,530	34,293
当期純利益	(百万円)	10,018	12,519	14,500	19,703	21,397
資本金	(百万円)	10,374	10,374	10,374	10,374	10,374
発行済株式総数	(千株)	31,667	31,667	31,667	31,667	95,001
純資産額	(百万円)	103,346	111,540	121,520	136,532	151,157
総資産額	(百万円)	204,098	217,797	237,539	262,411	281,513
1株当たり純資産額	(円)	3,270.31	3,529.63	3,845.46	1,440.17	1,594.47
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額)	(円)	135 ()	155 ()	200 ()	235 ()	90 ()
1株当たり 当期純利益金額	(円)	317.03	396.16	458.87	207.84	225.70
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	50.6	51.2	51.2	52.0	53.7
自己資本利益率	(%)	10.0	11.7	12.4	15.3	14.9
株価収益率	(倍)	17.5	13.4	14.2	21.5	16.9
配当性向	(%)	42.6	39.1	43.6	37.7	39.9
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数)	(人)	6,760 (742)	6,684 (708)	6,638 (682)	6,634 (685)	6,758 (759)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第51期の1株当たり配当額155円には、記念配当10円を含んでおります。

4. 当社は、平成26年7月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。そのため、第53期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額を算定しております。なお、第50期から第53期までの1株当たり配当額については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

2 【沿革】

年月	事項
昭和36年 7月	複写機及びサプライ商品の販売を目的として、東京都千代田区に大塚商会を創業
12月	法人組織に改め、株式会社大塚商会を設立
昭和37年12月	都内拠点展開の第1号店として、東京都品川区に大森支店を開設
昭和40年 3月	大阪市大淀区(現北区)に大阪支店(現関西支社)を開設
昭和43年 7月	東京都千代田区に本社ビル竣工、本店所在地を移転
昭和45年 8月	電算機事業を開始
昭和54年10月	自社開発の業務用パッケージソフト「SMILE」の販売開始
昭和56年 7月	パソコン及びワープロ専用機の販売開始
昭和57年 5月	「OAセンター」の地区展開及び教育ビジネスを開始
昭和59年 2月	CADシステム事業を開始
7月	大塚システムエンジニアリング株式会社(現株式会社OSK)を設立
昭和60年 2月	ホテル事業を開始
昭和62年 1月	大塚オートサービス株式会社を設立
7月	ネットワーク事業を開始
平成 2年 4月	企業向けの会員制サポート「トータル サービス」(現おたすけくん)を開始
8月	株式会社ネットワークを設立
平成 7年 6月	商用インターネット接続サービス「-Web」を開始
平成 8年 2月	株式会社アルファテクノを設立
9月	インターネットを利用したECショップを開始
11月	株式会社アルファシステムを子会社とする
平成 9年 5月	株式会社テナートニ(現サイオステクノロジー株式会社)を設立
8月	台湾に震旦大塚股份有限公司(現大塚資訊科技股份有限公司)を設立
10月	顧客の仕様に基づいたコンピュータの受注仕様組立を目的に、東京CTOセンターを開設
10月	株式会社アルファネットワーク24(現株式会社アルファネット)を設立
平成10年12月	東京CTOセンターにて「ISO9002」を取得
平成11年 2月	会員制通信販売「たのメール」(現たのめる)の販売開始
11月	ASP事業としてのホスティングサービス「-MAIL」の販売開始
11月	ドキュメント・ソリューション事業「ODS2000」(現ODS21)を開始
平成12年 7月	「大塚インターネットデータセンター」を開設
7月	東京証券取引所市場第一部に株式を上場
12月	主要14事業所で「ISO14001」を取得(現25事業所で取得)
平成13年 9月	情報セキュリティビジネス「OSM」を開始

年月	事項
平成15年 2月 4月	東京都千代田区に本社ビルを竣工し、本店所在地を移転 トータル サポートセンター(現たよれーるコンタクトセンター)が、ヘルプデスク協会(米国)から日本初の「HDI組織認定」を取得
平成16年 8月	株式会社テンアートニ(現サイオステクノロジー株式会社)が東証マザーズに株式を上場
平成17年10月	財団法人日本情報処理開発協会よりプライバシーマーク認定を取得
平成18年 4月 8月	欧智卡情報系統商貿(上海)有限公司を設立 サービス&サポート事業を「たのめーる」と「たよれーる」の2大ブランドに集約
平成19年10月	「SMILEシリーズ」のブランドをOSKに一本化
平成20年 5月	株式会社ライオン事務器と業務・資本提携
平成21年 2月	「たよれーるマネジメントサービスセンター」開設
平成22年 8月	創業50周年に向けて植樹活動やLED街路灯整備等の社会貢献活動を推進
平成23年 4月	全館LED照明を導入した横浜ビル竣工
平成24年12月	IR優良企業特別賞受賞
平成25年 9月	東京大学I-REF棟にLED照明やスマートコンセントを寄贈
平成26年 6月	IPv6普及・高度化推進協議会から表彰

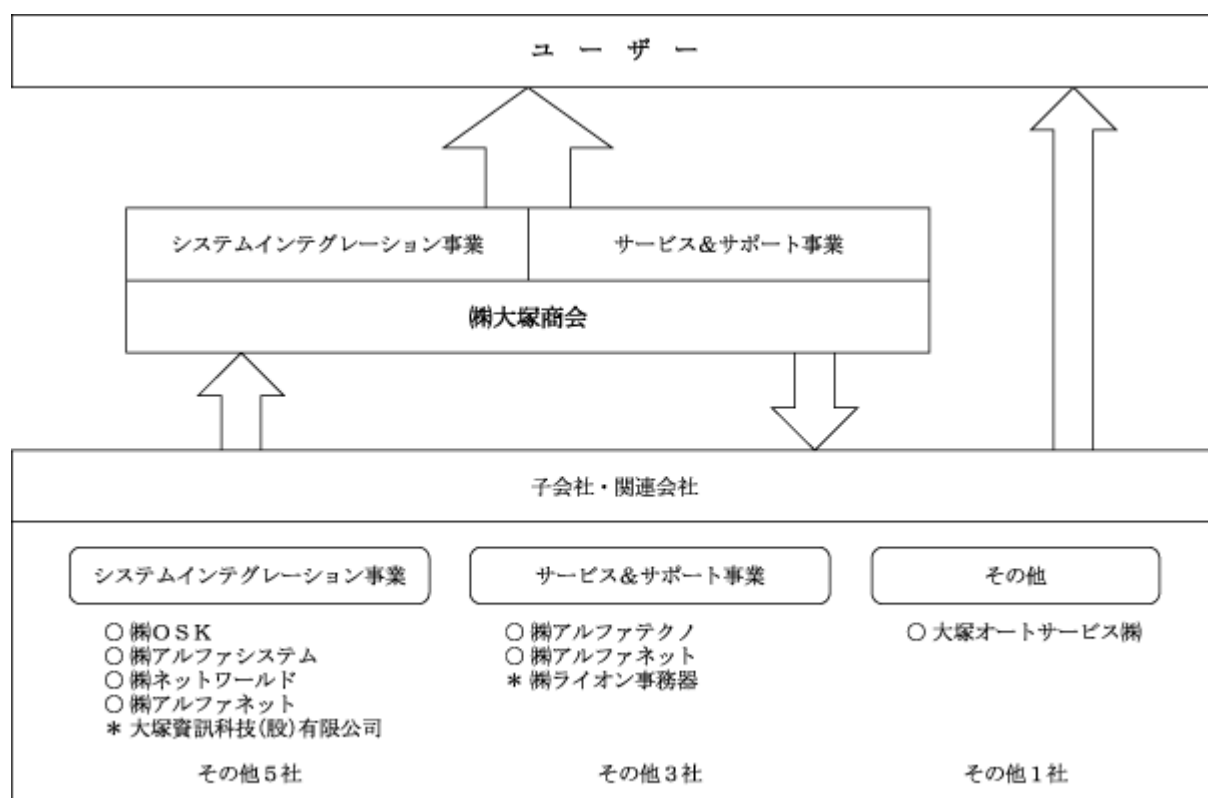
3 【事業の内容】

当社グループは、株式会社大塚商会(当社)及び子会社9社(うち連結子会社6社)と関連会社8社(うち持分法適用会社2社)の計18社により構成されており、情報システムの構築・稼働までを事業領域とするシステムインテグレーション事業と、システム稼働後のサポートを事業領域とするサービス&サポート事業を主な事業としております。

当社、主要な関係会社の位置付け及びセグメントとの関連の系統図は次のとおりであります。

なお、前連結会計年度において連結子会社であった㈱ネットプランは、業務縮小により重要性が低下したため、当連結会計年度の期首より連結の範囲から除外しております。

セグメントの名称		事業内容
報告セグメント	システムインテグレーション事業	コンサルティング、ハードウェア・ソフトウェア販売、受託ソフトウェア開発、機器の搬入設置・ネットワーク工事等
	サービス&サポート事業	オフィスサプライ供給、保守サービス、業務支援サービス等
その他		自動車整備・板金、保険代理店業等



○印は、連結子会社 *印は、持分法適用関連会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱OSK	東京都墨田区	400	システムインテグレーション事業	100.0	ソフトウェア開発の委託 役員の兼任あり 貸付金なし 設備の賃貸借あり
㈱アルファシステム	東京都文京区	80	システムインテグレーション事業	100.0	ソフトウェア開発の委託 役員の兼任なし 貸付金なし 設備の賃貸借なし
㈱ネットワーク	東京都千代田区	585	システムインテグレーション事業	81.5	ネットワーク関連商品の仕入等 役員の兼任なし 貸付金なし 設備の賃貸借なし
㈱アルファテクノ	千葉県習志野市	50	サービス&サポート事業	100.0	パソコン周辺機器修理等の委託 役員の兼任なし 貸付金なし 設備の賃貸借あり
㈱アルファネット	東京都文京区	400	サービス&サポート事業 及びシステムインテグレーション事業	100.0	ネットワークシステムのサポート委託 役員の兼任なし 貸付金なし 設備の賃貸借なし
大塚オートサービス㈱	東京都足立区	50	その他	100.0	自動車の整備・車検等の委託 役員の兼任あり 貸付金あり 設備の賃貸借なし
(持分法適用関連会社) 大塚資訊科技(股)有限公司	台湾省新北市	百万NT\$ 170	システムインテグレーション事業	37.8	役員の兼任あり 貸付金なし 設備の賃貸借なし
㈱ライオン事務器	大阪府東大阪市	2,677	サービス&サポート事業	40.4	事務用品・オフィス家具の仕入等 役員の兼任あり 貸付金なし 設備の賃貸借あり

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 上記子会社は、すべて特定子会社に該当していません。

3. ㈱ライオン事務器は有価証券報告書を提出しております。

4. 上記子会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合がそれぞれ100分の10以下であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

5. 議決権の所有割合(%)は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

6. 前連結会計年度において連結子会社であった㈱ネットプランは、業務縮小により重要性が低下したため、当連結会計年度の期首より連結の範囲から除外しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年12月31日現在

会社名	セグメントの名称	従業員数(人)	
(株)大塚商会	システムインテグレーション事業 及びサービス&サポート事業	6,758	(759)
(株)OSK	システムインテグレーション事業	242	(26)
(株)アルファシステム	システムインテグレーション事業	166	(16)
(株)ネットワーク	システムインテグレーション事業	355	(33)
(株)アルファテクノ	サービス&サポート事業	318	(93)
(株)アルファネット	サービス&サポート事業 システムインテグレーション事業	336 37	(291) (7)
大塚オートサービス(株)	その他	24	(5)
合計		8,236	(1,230)

- (注) 1. 提出会社において特定のセグメントに区分できないため、セグメント別の記載を省略し、それぞれ会社別に記載しております。
2. 従業員数は就業人員です。臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
3. 連結会社間の出向者は、出向先の会社で集計しております。
4. 当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含みます。
5. 臨時従業員には、契約社員、アルバイト、人材会社などからの派遣社員を含んでおり、連結会社からの派遣社員は含んでおりません。

(2) 提出会社の状況

平成26年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
6,758 (759)	39.8	15.8	8,216,227

- (注) 1. 特定のセグメントに区分できないため、セグメント別の記載を省略しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。
3. 従業員数は就業人員です。臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
4. 当社から社外への出向者11名を除き、社外から当社への出向者11名を含みます。
5. 臨時従業員には、契約社員、アルバイト、人材会社などからの派遣社員を含んでおり、連結子会社からの派遣社員76名は含んでおりません。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度(平成26年1月1日～平成26年12月31日)におけるわが国経済は、消費税増税前の駆け込み需要とその反動もありましたが、緩やかな景気回復基調で推移しました。

このような経済状況にあって国内企業のIT投資は、1月～3月期にWindows XPの買い換え需要に伴うシステムの更新や消費税増税前の駆け込み需要がピークを迎え、好調に推移しました。その後は、Windows XPの買い換え需要の反動でパソコンの国内出荷の前年割れが続くなど一部に弱さもみられましたが、IT投資全般としては概ね堅調に推移しました。

以上のような環境において当社グループは、「お客様の目線で信頼に応え、総合力でオフィスを元気にする」を平成26年度のスローガンに掲げ、3月までの需要のピークに備えパソコンやオフィスサプライ商品の在庫を確保し対応を行いました。また、受注量拡大への対応を目的とした大型物流センターを稼働し、Windows Server 2003のサポート終了に向けた業務アプリケーションサーバーの移行支援サービスを開始しました。そして、これまで以上に複合システム提案・総合提案に力を入れ、コスト削減や生産性向上による競争力強化に繋がるシステム提案、節電対策に有効な提案を積極的に行いました。併せて、魅力あるオフィスサプライ商品の品揃え、企業活動の生産性向上や負荷軽減を支援する保守サービスメニューの開発など、ストックビジネスの強化も図り、4月に公表した修正計画を達成し増収増益とすることができました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は6,057億66百万円(前年同期比7.3%増)となりました。利益につきましては、増収に伴う売上総利益の増加により、営業利益370億97百万円(前年同期比9.4%増)、経常利益381億44百万円(前年同期比13.8%増)、当期純利益234億55百万円(前年同期比15.7%増)となりました。

(システムインテグレーション事業)

コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、1月～3月期を中心にWindows XPの買い換え需要に伴うシステム更新需要を確実に捉え、その後はXP買い換え特需の反動もみられましたが当連結会計年度ではパソコンやサーバーの販売台数を伸ばし、また複写機の販売台数についても堅調に推移し、売上高は3,620億68百万円(前年同期比9.0%増)となりました。

(サービス&サポート事業)

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる(*)」において、4月の消費税増税の前後に一部影響を受けたもののその後は堅調に推移し、当連結会計年度ではたのめーると保守等ともに前年同期比増とし、売上高は2,433億16百万円(前年同期比4.9%増)となりました。

(その他)

その他の事業では、売上高は3億81百万円(前年同期比42.1%減)となりました。

* たのめーる = MRO(Maintenance, Repair and Operation: 消耗品・補修用品など、企業内で日常的に使用されるサプライ用品のこと)事業の中核を担う事業ブランド。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて210億79百万円増加し、979億43百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動から得られた資金は341億30百万円となり、前連結会計年度に比べ153億50百万円増加いたしました。これは主に、「税金等調整前当期純利益」が増加し、「売上債権の増減額」が減少に転じたことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は54億10百万円となり、前連結会計年度に比べ19億41百万円増加いたしました。これは主に、「ソフトウェアの取得による支出」が増加したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は75億80百万円となり、前連結会計年度に比べ10億19百万円増加いたしました。これは主に、「配当金の支払額」が増加したことによるものです。

また、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて134億9百万円増加し、287億20百万円となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループの主たる業務は、システム導入までのシステムインテグレーションからシステム導入後のサポート等であります。これらは顧客の注文に応じてサービス及びサポートを提供するものであり受注形態も多岐にわたっております。このため数量の把握をはじめ生産概念の意義が薄く、生産実績を把握することは困難でありますので、記載を省略しております。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	商品仕入高(百万円)	前年同期比(%)
システムインテグレーション事業	264,048	+6.9
サービス&サポート事業	105,254	+5.3
その他	27	23.6
合計	369,330	+6.4

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 金額は仕入価額によっております。
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当社グループの生産業務の内容は、ハードウェア及びソフトウェアの保守メンテナンスといったサポート業務が主なものであり、個別受注生産の占める割合が少ないため、受注状況の記載を省略しております。

(4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
システムインテグレーション事業	362,068	+9.0
サービス&サポート事業	243,316	+4.9
その他	381	42.1
合計	605,766	+7.3

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループは、経営環境や経営課題の変化に柔軟に対応できるよう経営の質を充実させ、取引顧客の深耕・拡大を軸に総合力を活かして収益力の向上と売上高の伸長を図ります。

そのために対処すべき課題として、

- ・グループ経営力の強化
- ・各事業分野の評価徹底と経営資源の最適配分
- ・サービス開発体制の強化
- ・ワンストップ運営体制の強化
- ・人材の育成

に取り組んでまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態等に影響を与える可能性のある代表的なリスクには、次のようなものが考えられます。これらの項目は、リスクのうち代表的なものであり、実際に起こりうるリスクは、これらに限定されるものではありません。

なお、文中における将来に関する事項は、本有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 顧客に関するリスク

当社グループの顧客は、大企業から中堅・中小企業まで、企業規模・業種ともに幅広く分散しており、特定顧客への依存度は低いと認識しております。

しかし、予測を超えた経済情勢の変化等により、多くの企業のIT投資動向が同一方向に変化した場合、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。

(2) 調達先に関するリスク

当社グループは顧客に応じた最適な問題解決を行うため、多くの調達先から各分野の優れた製品、サービス、技術(以下、製品等)の供給を受けています。これらの安定的な供給を受けられるよう、調達先との緊密な関係作りに注力する一方、新たな製品等に関する情報収集を絶えず行っています。

しかし、調達先の何らかの事情により、製品等の十分な供給が受けられない事態となり、しかも代替品の供給が得られない場合には、顧客に対して製品等の十分な提供ができず、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。

(3) 情報漏洩に関するリスク

当社グループでは業務に関連して多数の個人情報及び企業情報を保有しており、これらを厳重に管理しています。また、当社は一般財団法人日本情報経済社会推進協会より「プライバシーマーク」の認定を取得しており、インターネットデータセンターにおいては、「ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)適合性評価制度」の認証を取得しています。

情報管理に係る具体的な施策としては、個人情報保護方針を社内外に公表するとともに、個人情報保護規程、機密管理規程、情報システムセキュリティ規程等の諸規程を定めております。就労者と機密保持誓約書を取り交わした上で、独自の教育制度である「CP(コンプライアンスプログラム)免許制度」などにより情報管理への意識を高め、外部への情報漏洩を防いでいます。

しかし、これらの施策にもかかわらず、個人情報や企業情報が万一漏洩した場合には、損害賠償責任を負うばかりでなく社会的信用を失うこととなり、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 技術の提携

該当事項はありません。

(2) 仕入及び販売についての主な提携

該当事項のうち重要なものはありません。

(3) その他の主な業務提携

該当事項のうち重要なものはありません。

6 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動については、当社及び研究開発を担当する子会社である株式会社OSKが主な対象会社となり、当連結会計年度における研究開発費の総額は、5億3百万円であります。

なお、研究開発活動については、特定のセグメントに関連付けられないため、セグメント別の記載は行っておりません。

当社グループでは、コンピューターシステムのソフトウェアに関する以下のテーマについて研究開発を行っております。その目的は、新しい情報技術や製品の研究を基礎として、オリジナルのソフトウェア製品に常に新しい技術を取り入れ、高機能、高品質で先進的な製品を開発することにあります。この他、システムエンジニアのシステムサポート活動の効率アップを図るために、ソフトウェアの生産効率化ツールの開発にも取り組んでおります。

新しい情報技術や新製品の利用・活用に関する調査研究

オリジナルソフトウェア製品の開発

- ・業種・業務パッケージソフトの新製品開発と既存製品の著しい改良
- ・統合グループウェア関連ソフトの新製品開発と既存製品の著しい改良

受託ソフトウェアの開発における生産性向上、高品質化、標準化のための開発ツールの研究及び開発

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、この連結財務諸表を作成するにあたり重要となる会計方針については、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について」に記載されているとおりであります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

(売上状況)

当連結会計年度における当社グループの売上高は、前連結会計年度比411億70百万円増の6,057億66百万円(前連結会計年度比7.3%増)となりました。売上高の状況については、「第2 事業の状況 1. 業績等の概要 (1) 業績」に記載しております。

(損益状況)

利益につきましては、増収に伴う売上総利益の増加により、営業利益370億97百万円(前連結会計年度比9.4%増)、経常利益381億44百万円(前連結会計年度比13.8%増)、当期純利益234億55百万円(前連結会計年度比15.7%増)となりました。

(財政状態の分析)

(資産の部)

当連結会計年度末における資産合計は3,055億13百万円となり、前連結会計年度末に比べ259億24百万円増加しました。

流動資産は、「現金及び預金」などが増加したことにより2,349億31百万円と前連結会計年度末比189億91百万円増加しました。固定資産は、705億81百万円と前連結会計年度末比69億32百万円増加しました。

(負債の部)

当連結会計年度末における負債合計は1,411億65百万円となり、前連結会計年度末に比べ66億42百万円増加しました。

流動負債は、「支払手形及び買掛金」が減少したものの、「その他」が増加したことなどにより、1,332億82百万円と前連結会計年度末比43億78百万円増加しました。固定負債は、78億82百万円と前連結会計年度末比22億63百万円増加しました。

(純資産の部)

当連結会計年度末における純資産合計は、「利益剰余金」が増加したことなどにより1,643億47百万円と前連結会計年度末に比べ192億81百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は53.4%となり、前連結会計年度末より1.8ポイント向上いたしました。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

キャッシュ・フローの状況については、「第2 事業の状況 1. 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載しております。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 4. 事業等のリスク」に記載しております。

(4) 経営戦略の現状と見通し

今後、政府による経済対策の効果、雇用・所得環境の改善などが見込まれ、引き続き国内景気は緩やかながらも回復に向かっていくことが期待されます。

このような経済環境のもとで、国内企業は攻めのIT投資やマイナンバー制度導入に向けた準備などが必要とされています。そのため、企業のIT投資は底堅く推移するものと予想されます。

このような経済状況や企業のIT投資動向に対する見通しを前提として、当社グループはお客様との接点をさらに強化し、当社グループの持つ総合力でソリューション提案をいっそう強化してクロスセルを実践し、国内企業の生産性向上や収益力向上に対するニーズに対応していきます。そして魅力あるオフィスサプライ商品の品揃え、企業活動の生産性向上や負荷軽減を支援する保守サービスメニューの開発など、ストックビジネスを強化し、お客様と安定的かつ長期的な取引関係を構築し収益基盤の充実を図ります。また、人材育成と仕組みの両面から営業力やサポート力の底上げを図り、いっそうの生産性向上を図っていきます。

(システムインテグレーション事業)

システムインテグレーション事業では、企業のIT投資動向やIT活用ニーズを見極めながら、複写機、コンピューター、タブレット等のモバイル端末、電話機、回線等を組み合わせた複合システム提案や総合提案をさらに推進し、ソリューション提案の強化を図ります。また、Windows Server 2003のサポート終了やマイナンバー制度への積極的な対応を行います。

(サービス&サポート事業)

サービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる(*1)」において、商材の拡充、プライベートブランド商品「TANOSEE」の充実等を図ります。また、サポート事業「たよれーる(*2)」において、システムインテグレーション事業での成果を保守等のサービス契約増に繋げ、併せてハードウェアに依存しない新しいサービスを増やします。

*1 たのめーる = MRO (Maintenance, Repair and Operation : 消耗品・補修用品など、企業内で日常的に使用されるサプライ用品のこと) 事業の中核を担う事業ブランド。

*2 たよれーる = お客様の情報システムや企業活動全般をサポートする事業ブランド。

なお、本有価証券報告書に記載しております見通しなど将来についての事項は、本有価証券報告書提出日現在において判断したものであり、予測しえない経済状況の変化等さまざまな要因があるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、急速な技術革新や市場環境の変化に対応するため、70億88百万円の設備投資を行いました。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

システムインテグレーション事業では、主に営業支援環境強化、社内インフラ整備などのため37億10百万円の設備投資を行いました。

サービス&サポート事業では、主にネットワークサポートやシステム運用支援などの社内インフラ強化のため28億34百万円の設備投資を行いました。

2 【主要な設備の状況】

平成26年12月31日現在における当社グループ(当社及び連結子会社)の主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成26年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (百万円)	土地		その他 (百万円)	合計 (百万円)	
			面積 (㎡)	金額 (百万円)			
本社他 (東京都千代田区他)	システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	9,188 (996)	7,638	10,519	2,289	21,997	2,213
首都圏グループ (東京都千代田区他)	システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	6,275 (1,430)	5,293	3,092	291	9,660	2,733
関西支社 (大阪市福島区他)	システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	1,093 (373)	1,278	730	71	1,895	944
支店 (名古屋市中区他)	システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	41 (478)	-	-	38	80	739
ホテル事業部 (静岡県熱海市他)	サービス&サポート事業	3,297 (14)	50,730	1,265	108	4,671	129

(2) 子会社

平成26年12月31日現在

セグメントの名称	子会社数	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	土地		その他 (百万円)	合計 (百万円)	
				面積 (㎡)	金額 (百万円)			
システムインテグレーション事業	4	システムインテグレーション事業関連設備	104 (473)	-	-	215	319	800
サービス&サポート事業	2	サービス&サポート事業関連設備	28 (158)	-	-	41	69	654
その他	1	その他の関連設備	167 (-)	1,771	480	13	661	24

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、器具及び備品並びにリース資産であります。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 提出会社本社他には、本社機能を営む事業所を含んでおります。
4. 提出会社の首都圏グループ、関西支社には、配下の部・支店を含んでおります。
5. 提出会社の支店には、札幌支店(札幌市中央区)、仙台支店(仙台市宮城野区)、中部支店(名古屋市中区)、京都支店(京都市中京区)、神戸支店(神戸市中央区)、広島支店(広島市中区)、九州支店(福岡市博多区)等を含んでおります。
6. 提出会社のホテル事業部には、ニューさがみや(静岡県熱海市)、琵琶レイクオーツカ(滋賀県大津市)、一宮シーサイドオーツカ(千葉県長生郡)、いじか荘(三重県鳥羽市)を含んでおります。
7. 主要な賃借設備の年間賃借料を()内に外書きで表示しております。
8. 上記の他、主要なリース設備として、以下のものがあります。

(1) 提出会社

平成26年12月31日現在

セグメントの名称	内容	台数	年間賃借料及びリース料 (百万円)
システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	車両	2,228台	566

(2) 子会社

金額的な重要性がないため記載を省略しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設等の計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

該当事項はありません。

(2) 重要な改修、除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	338,580,000
計	338,580,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年3月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	95,001,060	95,001,060	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	95,001,060	95,001,060		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日 (注)	63,334	95,001	-	10,374	-	16,254

(注)株式分割(1:3)によるものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成26年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	69	44	83	412	6	6,219	6,833	
所有株式数 (単元)	-	163,565	15,919	304,218	253,473	17	212,706	949,898	11,260
所有株式数 の割合(%)	-	17.21	1.67	32.02	26.68	0.00	22.39	100	

(注) 自己株式199,910株は、「個人その他」に1,999単元及び「単元未満株式の状況」に10株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
大塚装備株式会社	東京都千代田区飯田橋 2 - 18 - 4	29,364	30.91
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 11	3,515	3.70
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町 2 - 11 - 3	3,320	3.49
大塚商会社員持株会	東京都千代田区飯田橋 2 - 18 - 4	2,966	3.12
大塚 裕司	東京都新宿区	2,840	2.99
大塚 厚志	東京都目黒区	2,837	2.98
大塚 実	東京都目黒区	2,836	2.98
大塚 照恵	東京都練馬区	1,936	2.03
サジャップ (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	P.O.BOX 2992 RIYADH 11169 KINGDOM OF SAUDI ARABIA (東京都千代田区丸の内 2 - 7 - 1)	1,878	1.97
ジャパン リ フィデリティ (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	P.O.BOX 2992 RIYADH 11169 KINGDOM OF SAUDI ARABIA (東京都千代田区丸の内 2 - 7 - 1)	1,116	1.17
計		52,614	55.38

(注) フィデリティ投信株式会社から、平成26年5月9日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成26年4月30日現在で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況に含めておりません。なお、「保有株券等の数(千株)」の株式数は、平成26年5月9日付の大量保有報告書に記載されていた株式数であり、その後、当社は平成26年7月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区虎ノ門4丁目3番1号 城山トラ スタワー	1,635	5.16
計	-	1,635	5.16

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 199,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 94,789,900	947,899	
単元未満株式	普通株式 11,260		
発行済株式総数	95,001,060		
総株主の議決権		947,899	

(注) 「単元未満株式」の中には、当保有の自己株式が次のとおり含まれております。
自己株式 10 株

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社大塚商会	東京都千代田区 飯田橋2 - 18 - 4	199,900		199,900	0.21
計		199,900		199,900	0.21

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	133,817	8,089,455
当期間における取得自己株式		

(注) 1. 当社は、平成26年7月1日を効力発生日として、1株につき3株の割合で株式分割を実施しております。当事業年度における取得自己株式の株式数は、当該株式分割により増加した132,186株に、株式分割後に単元未満株式の買取りにより増加した1,631株を加えたものであります。

2. 当期間における取得自己株式には、平成27年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	199,910		199,910	

(注) 当期間における保有自己株式には、平成27年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は株主の皆様への利益配分を最も重要な経営課題の一つと認識しており、経営基盤の強化と財務体質の健全性を勘案しつつ、安定的な配当の継続を業績に応じて行うことを基本方針としております。また、事業年度における配当回数につきましては、通期の業績を踏まえて、年1回としております。

このような方針に基づき、当事業年度の株主配当金につきましては、1株当たり配当金を90円とし、ご支援を賜った株主の皆様への利益還元を実施させていただきました。この結果、当事業年度の配当性向は39.9%となりました。

なお、当社における剰余金の期末配当の決定機関は、定時株主総会であります。また当社は、「取締役会の決議により、毎年6月30日を基準として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年3月27日 定時株主総会決議	8,532	90

(注) 当社は、平成26年7月1日を効力発生日として、1株につき3株の割合で株式分割を実施しております。これに伴い、上記の1株当たり配当額については、株式分割後の金額を記載しております。なお、株式分割を考慮しない場合の当該1株当たり配当額は270円となります。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月	平成25年12月	平成26年12月
最高(円)	7,150	6,170	7,320	13,490	14,010 5,083
最低(円)	4,605	4,100	5,150	6,590	11,150 3,720

(注) 1. 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものです。

2. 印は、株式分割(平成26年7月1日付で1株につき3株の割合で株式分割)による権利落後の株価であります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	5,050	4,895	4,565	4,480	4,300	4,145
最低(円)	4,580	4,325	4,305	3,940	3,865	3,720

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものです。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	マーケティング本 部長	大塚 裕 司	昭和29年2月13日生	昭和51年4月 株式会社横浜銀行入行 昭和55年12月 株式会社リコー入社 昭和56年11月 当社入社 平成4年3月 取締役就任 平成5年3月 常務取締役就任 平成6年3月 専務取締役就任 平成7年3月 取締役副社長(代表取締役) 就任 平成12年8月 大塚装備株式会社 代表取 締役社長(現任) 平成13年8月 取締役社長(代表取締役)就 任 平成18年3月 代表取締役社長就任(現任)	(注)3	2,840
取締役兼 専務執行役員	営業本部長、マー ケティング副本部 長	片倉 一 幸	昭和27年6月11日生	昭和51年3月 当社入社 平成8年10月 C A D販売促進部長 平成9年3月 取締役就任 平成11年3月 常務取締役就任 平成15年7月 常務取締役兼上席執行役員 就任 平成18年3月 取締役兼上席常務執行役員 就任 平成20年3月 取締役兼専務執行役員就任 (現任)	(注)3	24
取締役兼 専務執行役員	MRO事業部長、 たのめるマーケ ティング部長、物 流推進部担当	高橋 俊 泰	昭和25年11月7日生	昭和48年3月 当社入社 平成12年7月 MRO事業部長 平成14年3月 取締役就任 平成15年7月 取締役兼上席執行役員就任 平成18年3月 取締役兼常務執行役員就任 平成22年3月 取締役兼上席常務執行役員 就任 平成23年3月 取締役兼専務執行役員就任 (現任)	(注)3	47
取締役兼上席 常務執行役員	ビジネスパート ナー事業部長、ホ テル事業部担当	塩川 公 男	昭和25年7月1日生	昭和48年3月 当社入社 平成6年3月 福岡支店長 平成8年3月 取締役就任 平成15年7月 取締役兼上席執行役員就任 平成19年3月 取締役兼常務執行役員就任 平成22年3月 取締役兼上席常務執行役員 就任(現任)	(注)3	40
取締役兼 常務執行役員	関西支社長、エリ ア部門長、エリア プロモーション部 担当	矢野 克 尚	昭和30年6月18日生	昭和54年3月 当社入社 平成12年7月 L A事業部長 平成14年3月 取締役就任 平成15年7月 取締役兼上席執行役員就任 平成22年3月 取締役兼主席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注)3	20
取締役兼 常務執行役員	プロジェクト推進 室長、監査室担当	齋藤 廣 伸	昭和24年7月17日生	昭和43年8月 当社入社 平成12年10月 経営企画室長 平成15年7月 執行役員就任 平成19年3月 取締役兼上席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注)3	92

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役兼 常務執行役員	経営管理本部長	若松 康博	昭和24年10月8日生	昭和47年3月 神戸生絲株式会社入社 昭和60年4月 当社入社 平成10年3月 経理部長 平成15年7月 執行役員就任 平成20年3月 取締役兼上席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注)3	16
取締役兼 常務執行役員	CAD部門長、C ADプロモーション 部長	鶴見 裕信	昭和30年7月23日生	昭和54年3月 当社入社 平成13年11月 震旦大塚(股)有限公司(現大 塚資訊科技(股)有限公司) 董事長(現任) 平成16年7月 執行役員就任 平成18年3月 上席執行役員就任 平成22年3月 取締役兼上席執行役員就任 平成25年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注)3	17
取締役兼 常務執行役員	技術本部長、AP ソリューション部 門長、TCソ リューション部門 長、サービスセン ター長	桜井 実	昭和32年3月27日生	昭和54年3月 当社入社 平成15年7月 テクニカルソリューション センター長 平成17年3月 執行役員就任 平成22年3月 上席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼上席執行役員就任 平成25年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注)3	9
取締役兼 上席執行役員	システム部門長、 本部SI統括部 長、システムプロ モーション部長	広瀬 光哉	昭和30年10月18日生	昭和54年3月 当社入社 平成13年4月 業種販売促進部長 平成15年7月 執行役員就任 平成18年3月 上席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼上席執行役員就任 (現任)	(注)3	16
取締役兼 上席執行役員	LA事業部長、L A事業部首都圏営 業部長、LA事業 部広域グループ長	田中 修	昭和28年5月17日生	昭和52年3月 当社入社 平成13年7月 LA首都圏営業部長 平成18年3月 執行役員就任 平成22年3月 上席執行役員就任 平成24年3月 主席執行役員就任 平成25年3月 取締役兼上席執行役員就任 (現任)	(注)3	18
取締役兼 上席執行役員	経営管理本部長代 理	森谷 紀彦	昭和28年11月24日生	昭和59年6月 当社入社 平成16年1月 人事部長 平成21年3月 執行役員就任 平成23年3月 上席執行役員就任 平成24年3月 主席執行役員就任 平成25年3月 取締役兼上席執行役員就任 (現任)	(注)3	4
取締役		牧野 二郎 (注)1	昭和28年5月14日生	昭和58年4月 弁護士登録 平成2年8月 牧野総合法律事務所(現牧野 総合法律事務所弁護士法人) 開設 所長(現任) 平成16年3月 当社監査役就任 平成27年3月 取締役就任(現任)	(注)3	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		中野 清	昭和26年2月28日生	昭和48年4月 高千穂交易株式会社入社 昭和56年4月 当社入社 平成8年7月 福岡支店長 平成18年3月 執行役員就任 平成22年3月 参与就任 平成23年3月 常勤監査役就任(現任)	(注)4	18
監査役		杉山 幹夫 (注)2	昭和23年2月22日生	昭和55年3月 公認会計士登録 昭和55年6月 税理士登録 昭和59年1月 森公認会計士共同事務所・杉山税理士事務所(現杉山公認会計士事務所)開設 所長(現任) 平成元年4月 医業経営コンサルタント(経営)登録 平成19年3月 当社監査役就任(現任)	(注)5	
監査役		仲井 一彦 (注)2	昭和26年8月31日生	昭和51年8月 監査法人中央会計事務所入所 昭和56年3月 公認会計士登録 平成7年11月 中央監査法人代表社員 平成17年3月 税理士登録 仲井一彦税理士事務所開設 所長(現任) 平成19年7月 新日本監査法人(現新日本有限責任監査法人)代表社員 平成22年7月 仲井一彦公認会計士事務所開設 所長(現任) 平成23年6月 日本アンテナ株式会社社外監査役(現任) 平成24年3月 当社監査役就任(現任)	(注)5	
監査役		若槻 哲太郎 (注)2	昭和49年10月22日生	平成12年4月 弁護士登録 平成16年4月 村田・若槻法律事務所設立 平成26年3月 株式会社TPC社外監査役(現任) 平成26年6月 SBIライフリビング株式会社社外監査役(現任) 平成27年3月 当社監査役就任(現任)	(注)4	
計						3,168

- (注) 1. 取締役の牧野二郎は、社外取締役であります。
2. 監査役の杉山幹夫、仲井一彦、若槻哲太郎は、社外監査役であります。
3. 平成27年3月27日開催の定時株主総会で選任後、平成28年度に関する定時株主総会の終結の時まで
4. 平成27年3月27日開催の定時株主総会で選任後、平成30年度に関する定時株主総会の終結の時まで
5. 平成24年3月28日開催の定時株主総会で選任後、平成27年度に関する定時株主総会の終結の時まで
6. 当社は、コーポレートガバナンスの強化と経営効率化をより一層図るため、平成15年7月より執行役員制度を導入しております。各執行役員は上記の取締役兼務者のほか、次の者で構成されております。

役名	職名	氏名
常務執行役員	北関東営業部長	山 幸司
主席執行役員	中央第一営業部長	藤野 卓雄
上席執行役員	城北営業部長	奥山 和悦
上席執行役員	通信ネットワーク副部門長、通信ネットワークプロモーション部長	水谷 亮介
上席執行役員	共通基盤総合NWプロモーション部長、共通基盤Webサービスプロモーション部長、共通基盤ハード・ソフトプロモーション部長、地域プロモーション部長、ブランド戦略室長	後藤 和彦
上席執行役員	トータルソリューショングループ長、インサイドビジネスセンター長、SPR・CRMセンター長	大谷 俊雄
上席執行役員	大阪南営業部長	西岡 績
上席執行役員	サポートセンター部門長、たよれーるコンタクトセンター長、たよれーる管理センター長、たよれーる戦略推進室長	関口 淳一
上席執行役員	通信ネットワーク部門長、通信ネットワークプロモーション部担当	植野 弘治
上席執行役員	神奈川営業部長	三浦 秀明
上席執行役員	MRO事業部長補佐、MRO営業部長	松本 周市
上席執行役員	ビジネスパートナー事業部長補佐、ビジネスパートナー事業部東日本営業部長	長坂 英夫
上席執行役員	大阪北営業部長	尼子 康雄
執行役員	城西営業部長	小瀬村 聖
執行役員	中央第二営業部長	清野 憲秀
執行役員	経営計画室長、経理部長、業務管理部担当	斉藤 健治
執行役員	多摩営業部長	伊藤 憲次
執行役員	PLMソリューション営業部長	武藤 博
執行役員	中部支店長	猪岡 義昭
執行役員	トータル情報システム室長	高松 英則

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、以下のミッションステートメントに定める企業倫理と遵法の精神に基づき、コンプライアンスの徹底、経営の透明性と公正性の向上により、環境変化への機敏な対応と競争力の強化を目指しております。

<ミッションステートメント>

《使命》

大塚商会は多くの企業に、情報・通信技術の革新によってもたらされる新しい事業機会や経営改善の手段を具体的な形で提供し、企業活動全般にわたってサポートします。そして、各企業の成長を支援し、わが国のさらなる発展と心豊かな社会の創造に貢献しつづけます。

《目標》

- ・社会から信頼され、支持される企業グループとなる。
- ・従業員の成長や自己実現を支援する企業グループとなる。
- ・自然や社会とやさしく共存共栄する先進的な企業グループとなる。
- ・常に時代にマッチしたビジネスモデルを創出しつづける企業グループとなる。

《行動指針》

- ・常にお客様の目線で考え、お互いに協力して行動する。
- ・先達のチャレンジ精神を継承し、自ら考え、進んで行動する。
- ・法を遵守し、社会のルールに則して行動する。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

イ．企業統治の体制及びその体制を採用する理由

当社は会社の機関として、株主総会、取締役及び取締役会、監査役及び監査役会並びに会計監査人を設置しております。

当社の事業領域は多岐にわたっており、これらの領域を理解し、またIT産業に精通していることが重要であるため、社外取締役を主体としたガバナンス体制は適していないと判断し、監査役制度を採用しております。また、業務執行の監督機能の強化を目的として社外取締役及び社外監査役を選任しております。

なお、社外取締役及び社外監査役には、法律又は財務及び会計に関する相当程度の識見及び経験を有している者を選任しております。

取締役会は、社外取締役1名を含む13名で構成しており、毎月1回定時開催し、法令及び定款の規定により取締役会の決議を要する重要事項を審議・決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しております。また、執行役員制度を導入することにより、取締役会で選任された執行役員が業務執行機能を担い、取締役会及び監査役が業務執行の監督機能を担うことで、執行と監督の分離を図り、業務執行の意思決定の迅速化及び取締役会の監督機能の強化を図っております。

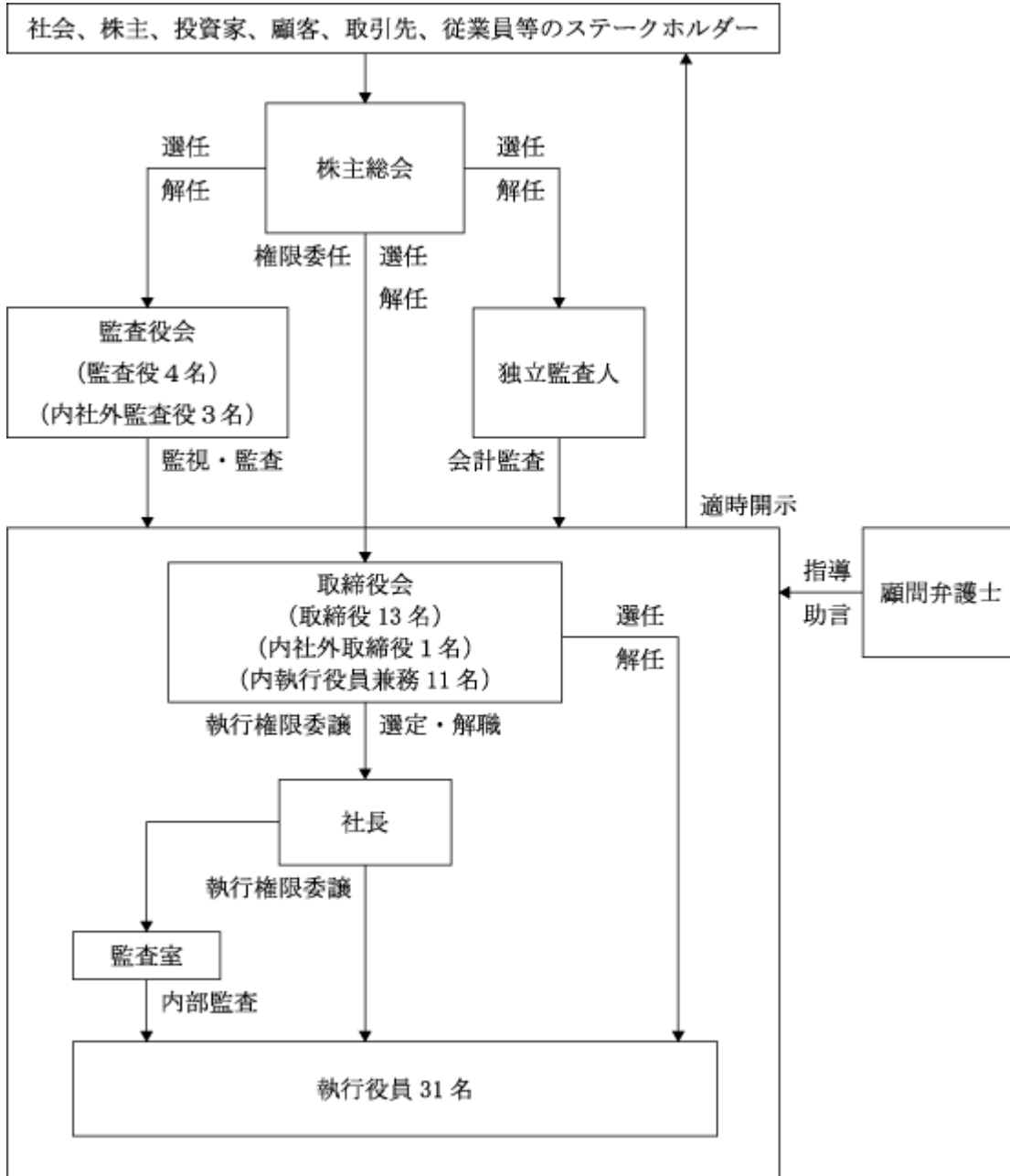
監査役会は、社外監査役3名を含む4名の監査役で構成しております。取締役会等、重要な会議体へ出席して適宜助言・勧告を行い、経営の適正な監視及び取締役の職務執行を厳正に監査しております。

さらに、グループ企業の経営トップ(特別執行役員)で構成される「グループ経営者会議」を開催し、各社の経営状況や利益計画の進捗を把握するとともに、コーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

(注)当社は、平成27年3月27日開催の定時株主総会において、社外取締役1名を新たに選任しております。

ロ．図表

当社経営の意思決定、業務執行、監督の体制は概ね以下のとおりです。



八．内部統制システム整備の状況

当社は、会社法第362条第5項に従い、取締役会において、業務の適正を確保するための体制の基本方針を次のとおり決議いたしました。

内部統制システムの基本方針

a．取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

ミッションステートメントをコンプライアンス体制の基礎として、取締役はその遵守及び推進に率先垂範して取り組む。

取締役及び使用人は、継続的なコンプライアンス教育による意識改善、内部監査による業務改善、内部通報制度の適切な活用等を通じてコンプライアンス体制の向上を図り、職務執行の法令及び定款への適合を確保することに努める。

b．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報(文書又は電磁的記録)及びその他の重要な情報を、法令及び社内規程に基づき、適切に保存、管理する。

c．損失の危険の管理に関する規程その他の体制

社内規程に則してリスク管理体制の整備を進め、経営成績、財政状態等に影響を及ぼすリスクを識別、分析及び評価し、適切な対応を行う。

不測の事態が生じた場合には、対策本部を設置し、リスク情報を集約し、迅速かつ適切な対応策を講じる。

d．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は、原則月1回開催し、経営に関する重要事項について、審議、決議及び業務執行状況の監督を行う。また、意思決定の妥当性を高めるための会議体についてその開催及び付議基準を明確化し、業務執行の詳細を「職務権限規程」及び「職務分掌規程」に定め、効率性を高めるものとする。

e．当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ企業は、ミッションステートメントに則した業務執行により、自浄作用を機能させることで業務の適正を確保する。

各グループ企業内に内部監査室を設置して、業務の改善による経営の合理化に寄与するものとする。

「グループ経営者会議」の開催で、各グループ企業の経営状況や利益計画の進捗を把握するとともに、

「特別執行役員制度」により各グループ企業のコーポレート・ガバナンスの強化に努めるものとする。

f．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役からその職務を補助すべき使用人の設置を求められた場合は、監査役と協議のうえ適切な体制を構築する。

当該使用人への人事権に係る事項の決定については、監査役の事前の同意を得ることにより取締役からの独立性を確保する。

g．取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制及びその他の監査役への報告に関する体制

監査役が取締役及び使用人から業務執行の状況について報告を受けることができる体制を整備するとともに、監査を実施する社内各部署との協調・連携を強化する。

h．その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

代表取締役は、監査役と適宜意見交換を行うこととする。

内部監査室は監査役と緊密な連携を保ち、監査役の要請に応じて調査を行うこととする。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

a．基本的な考え方

当社は、ミッションステートメント及びコンプライアンス規程において、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持たないことを規定しております。

b．整備状況

当社は、ミッションステートメント及びコンプライアンスマニュアルにおいて、反社会的勢力に対する行動指針を示すとともに、コンプライアンス室と人事総務部を対応部署としております。

また、顧問弁護士や警察及び公益社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会等の外部機関と連携して社内体制の整備と情報収集を行うとともに、社員への行動指針の周知徹底を図っております。

二．内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、社長直轄の監査室（12名）を設置しており、当社グループ全体を対象に、業務活動の全般に関して、方針・計画・手続の妥当性及業務実施の有効性、法令の遵守等について、定期・随時に内部監査を実施し、業務改善や意識改善のための具体的な助言・勧告を行っております。

なお、監査室は、各グループ企業内に設置した内部監査室より、各グループ企業で実施した内部監査の結果について報告を受けております。

監査役監査については、監査役会が監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、取締役、監査室等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役等からその職務の執行状況について報告を受け、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しております。また、内部統制システムの状況を監視及び検証しております。

監査役と監査室の連携状況は、月1回、定期的に会合を開催し、監査計画、監査実施状況、業務執行状況等に関する情報交換を行い、必要に応じて対処しております。

監査役と会計監査人の連携状況は、適宜会合を開催し、監査計画、監査実施状況、指摘事項の改善状況の確認、取締役の行為の適法性の確認等に関する情報交換を行い、必要に応じて対処しております。

ホ．会計監査の状況

当社は、会計監査を担当する会計監査人として新日本有限責任監査法人と監査契約を結び、会計監査を受けております。

当期において業務執行した公認会計士の氏名及び監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりです。

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員 白羽 龍三

指定有限責任社員 業務執行社員 狩野 茂行

指定有限責任社員 業務執行社員 江下 聖

会計監査業務に係る補助者の人数

公認会計士 18名

その他 18名

継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

へ．社外取締役及び社外監査役との関係

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するにあたり、独立性に関する基準等を定めておりませんが、選任に当たっては、東京証券取引所の規則等の独立性に関する諸規定を参考に、経歴や当社との関係から個別に判断し、当社からの独立性を確保できる者を選任しております。

社外取締役は次の1名を選任しており、取締役会に出席し識見及び経験を生かした意見を積極的に表明しており、取締役会による業務執行の監督機能の強化を図っております。

取締役牧野二郎氏は、弁護士としての資格を有し、企業法務の実務に長年にわたり携わっていること及び、同氏は平成16年3月に当社の社外監査役として選任され就任しており、その在任期間は11年となることから社外取締役に選任しております。また、株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

社外監査役は、次の3名を選任しており、それぞれ取締役会に出席し識見及び経験を活かした意見を積極的に表明しており、これにより取締役会の判断に牽制を働かせております。

監査役杉山幹夫氏は、公認会計士としての資格を有しているところから社外監査役に選任しております。また、株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

監査役仲井一彦氏は、公認会計士としての資格を有しているところから社外監査役に選任しております。また、株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

なお、監査役仲井一彦氏の重要な兼職先である日本アンテナ株式会社と当社との間には、特別の利害関係等はありません。

また、同氏は、平成19年に新日本監査法人（現新日本有限責任監査法人）に代表社員として入所し、平成22年に新日本有限責任監査法人を退職しております。当社は新日本有限責任監査法人と契約を結び、会計監査を受けておりますが、同法人と当社との間には、特別の利害関係等はありません。

監査役若槻哲太郎氏は、弁護士としての資格を有しているところから社外監査役に選任しております。また、株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

なお、監査役若槻哲太郎氏の重要な兼職先である株式会社T P C及びS B Iライフリビング株式会社と当社との間には、特別の利害関係等はありません。

上記各氏と当社との間には、特別の利害関係等はありません。

ト．社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、監査役会において監査報告、内部統制委員会からの内部統制の整備・運用状況等に関する報告並びに監査室からの内部監査の報告を定期的に受け取ることにより、当社グループの現状と課題を把握し、専門的な見地から、必要に応じて取締役会において意見を表明しております。また、会計監査人及び監査室をはじめとする内部監査部門との情報交換・意見交換を適宜行い、監査情報の共有に努めております。

リスク管理体制の整備の状況

リスク管理体制については、事業リスクマネジメントを推進及び統括するための組織としてリスク管理委員会を設置しております。

リスク管理委員会は、会社に関係する全てのリスクを洗い出し評価を行い、重要なリスクについては個別対策を検討し、各所管部門・部署に対してリスク管理を継続的かつ安定的に維持・運用するために、リスクマネジメントシステムの構築を指示しております。同時に危機管理への対応として、a．平常時における危機管理への準備、b．危機発生時の対応、c．事業継続計画・管理への取り組みも進めております。

役員報酬の内容

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	386	259	83	43	12
監査役 (社外監査役を除く。)	18	16		1	1
社外監査役	16	16			3

- (注) 1．取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2．取締役の報酬限度額は、平成2年3月13日開催の株主総会決議において年額650百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。
3．監査役の報酬限度額は、平成17年3月30日開催の株主総会決議において年額50百万円以内と決議いただいております。
4．上記の退職慰労金には、当事業年度における役員退職慰労引当金の増加額が含まれております。

ロ．提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社の役員の報酬等は、取締役については基本報酬、賞与および退職慰労金により構成され、それぞれの決定方針は以下の通りであります。基本報酬は、株主総会にて決議された総額の範囲内において、使用人の最高位の年収を基礎とし、その職位毎に役割の大きさに応じて決定する固定報酬としております。賞与は、経営に対する貢献度に連動させるため、営業利益達成率と役員個人の業績貢献度を元に決定しております。また、監査役報酬については、株主総会にて決議された総額の範囲内において、監査役会にて協議により決定しております。退職慰労金は、原則常勤役員に対して役位毎に年間基本額を設定しており、会社及び個人業績を加減した金額を退任時に支払うことにしております。なお、ストックオプション制度は採用しておりません。

株式の保有状況

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 57銘柄
貸借対照表計上額の合計額 5,968百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である上場投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び

保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
テンプホールディングス株式会社	1,000,000	2,797	取引関係の円滑化・維持
ピリングシステム株式会社	50,000	400	同上
株式会社リコー	257,029	287	同上
株式会社横浜銀行	382,204	223	同上
大和ハウス工業株式会社	100,000	203	同上
ウチダエスコ株式会社	180,000	139	同上
株式会社クレディセゾン	50,000	138	同上
大東建託株式会社	13,100	128	同上
スリープログループ株式会社	360,000	82	同上
株式会社明光ネットワークジャパン	60,000	67	同上
日本ゼオン株式会社	28,480	28	同上
株式会社京葉銀行	50,000	25	同上
日本化薬株式会社	15,711	23	同上
株式会社バンダイナムコホールディングス	9,504	22	同上
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	29,110	20	同上
田辺三菱製薬株式会社	13,300	19	同上
飯野海運株式会社	27,506	17	同上
ジェイ・エスコムホールディングス株式会社	150,000	12	同上
協和発酵キリン株式会社	8,000	9	同上
第一生命保険株式会社	4,300	7	同上
イワブチ株式会社	16,023	6	同上
株式会社みずほフィナンシャルグループ	21,520	4	同上
レンゴー株式会社	7,600	4	同上
株式会社土屋ホールディングス	7,929	3	同上
株式会社ハイパー	6,000	3	同上
森永製菓株式会社	13,801	2	同上
株式会社大京	9,400	2	同上
株式会社オートバックスセブン	1,500	2	同上
株式会社マルゼン	2,000	1	同上
キャノンマーケティングジャパン株式会社	1,155	1	同上

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
テンポホールディングス株式会社	1,000,000	3,805	取引関係の円滑化・維持
株式会社リコー	272,637	335	同上
株式会社横浜銀行	382,204	251	同上
大和ハウス工業株式会社	100,000	229	同上
ウチダエスコ株式会社	180,000	189	同上
ピリングシステム株式会社	50,000	184	同上
大東建託株式会社	13,100	179	同上
スリープログループ株式会社	360,000	133	同上
株式会社クレディセゾン	50,000	112	同上
株式会社明光ネットワークジャパン	60,000	73	同上
株式会社京葉銀行	50,000	33	同上
日本ゼオン株式会社	29,367	31	同上
日本化薬株式会社	16,256	24	同上
株式会社バンダイナムコホールディングス	9,504	24	同上
田辺三菱製薬株式会社	13,300	23	同上
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	29,110	19	同上
飯野海運株式会社	28,485	19	同上
ジェイ・エスコムホールディングス株式会社	150,000	11	同上
協和発酵キリン株式会社	8,000	9	同上
イワブチ株式会社	17,155	8	同上
第一生命保険株式会社	4,300	7	同上
株式会社ハイパー	6,000	5	同上
森永製菓株式会社	14,633	4	同上
株式会社みずほフィナンシャルグループ	21,520	4	同上
レンゴー株式会社	7,600	3	同上
株式会社オートバックスセブン	1,500	2	同上
キヤノンマーケティングジャパン株式会社	1,155	2	同上
株式会社マルゼン	2,000	2	同上
株式会社土屋ホールディングス	8,411	2	同上
株式会社大京	9,400	1	同上

八．保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

取締役の定数

当社の取締役は19名以内とする旨を定款に定めております。

責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議については、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の期末配当の決定機関を定時株主総会としております。

中間配当

当社は、取締役会の決議によって毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

自己株式の取得

当社は、経済情勢の変化に対応した機動的な資本政策を遂行できるようにするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

取締役及び監査役の責任免除

該当事項はありません。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	65		65	0
連結子会社	13		13	
計	79		79	0

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、顧客向けセミナー関連業務等
あります。

【監査報酬の決定方針】

当社は、監査公認会計士等が独立した立場において公正かつ誠実に監査証明業務を行えるよう、監査日数、業
務の特性、規模等を勘案し、監査報酬を適切に決定することとしております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)及び事業年度(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するとともに、会計基準設定主体等の行う研修への参加等により、積極的な情報収集活動に努めております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2 69,347	2 90,234
受取手形及び売掛金	4 99,664	4 98,066
有価証券	5,700	5,900
商品	18,864	17,822
仕掛品	934	993
原材料及び貯蔵品	843	810
繰延税金資産	3,521	2,969
その他	17,225	18,282
貸倒引当金	160	146
流動資産合計	215,940	234,931
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	65,862	63,351
減価償却累計額及び減損損失累計額	42,090	41,080
建物及び構築物（純額）	23,772	22,270
土地	3 17,244	3 16,832
その他	13,786	13,553
減価償却累計額及び減損損失累計額	10,829	10,294
その他（純額）	2,957	3,259
有形固定資産合計	43,974	42,363
無形固定資産		
ソフトウェア	5,112	8,133
その他	59	59
無形固定資産合計	5,172	8,192
投資その他の資産		
投資有価証券	1 7,584	1 8,671
差入保証金	2,437	2,553
長期前払費用	1,719	291
繰延税金資産	1,394	1,338
退職給付に係る資産	-	5,389
その他	2,866	1,977
貸倒引当金	1,501	196
投資その他の資産合計	14,502	20,025
固定資産合計	63,648	70,581
資産合計	279,589	305,513

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2, 4 70,509	2, 4 67,066
電子記録債務	14,546	15,389
短期借入金	6,950	6,850
リース債務	708	960
未払法人税等	7,034	8,007
前受金	9,990	10,845
賞与引当金	3,097	3,126
その他	16,066	21,036
流動負債合計	128,903	133,282
固定負債		
リース債務	1,412	1,774
繰延税金負債	499	2,059
再評価に係る繰延税金負債	3 189	3 142
退職給付引当金	2,288	-
役員退職慰労引当金	535	582
退職給付に係る負債	-	2,533
資産除去債務	227	215
その他	465	575
固定負債合計	5,618	7,882
負債合計	134,522	141,165
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,374	10,374
資本剰余金	16,254	16,254
利益剰余金	129,640	145,326
自己株式	127	135
株主資本合計	156,142	171,820
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,314	2,974
土地再評価差額金	3 14,304	3 14,069
為替換算調整勘定	0	52
退職給付に係る調整累計額	-	2,499
その他の包括利益累計額合計	11,991	8,543
少数株主持分	915	1,070
純資産合計	145,066	164,347
負債純資産合計	279,589	305,513

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
売上高	564,595	605,766
売上原価	440,825	474,176
売上総利益	123,769	131,589
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	38,863	40,069
役員報酬	614	580
福利厚生費	5,984	6,278
賃借料	5,504	6,047
運送費及び保管費	14,116	15,570
賞与引当金繰入額	2,018	2,055
退職給付費用	2,143	1,962
役員退職慰労引当金繰入額	80	72
貸倒引当金繰入額	13	25
減価償却費	3,344	3,562
その他	17,183	18,267
販売費及び一般管理費合計	¹ 89,868	¹ 94,492
営業利益	33,901	37,097
営業外収益		
受取利息	47	42
受取配当金	76	78
受取家賃	234	238
リサイクル収入	104	212
持分法による投資利益	-	174
為替差益	45	140
その他	291	223
営業外収益合計	799	1,112
営業外費用		
支払利息	65	62
貸倒引当金繰入額	1,058	-
持分法による投資損失	55	-
その他	16	3
営業外費用合計	1,195	65
経常利益	33,505	38,144

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	-	2 56
関係会社清算益	-	223
投資有価証券売却益	105	29
受取補償金	32	52
その他	0	-
特別利益合計	138	363
特別損失		
固定資産売却損	-	3 393
固定資産除却損	4 166	4 118
減損損失	259	6
投資有価証券評価損	54	77
貸倒引当金繰入額	5 94	-
その他	18	0
特別損失合計	594	597
税金等調整前当期純利益	33,049	37,910
法人税、住民税及び事業税	12,767	13,886
法人税等調整額	147	359
法人税等合計	12,619	14,246
少数株主損益調整前当期純利益	20,429	23,663
少数株主利益	157	208
当期純利益	20,271	23,455

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	20,429	23,663
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1,628	662
持分法適用会社に対する持分相当額	99	51
土地再評価差額金	-	235
その他の包括利益合計	1,728	948
包括利益	22,158	24,612
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	22,000	24,403
少数株主に係る包括利益	157	208

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,374	16,254	115,688	126	142,191
当期変動額					
剰余金の配当			6,320		6,320
当期純利益			20,271		20,271
自己株式の取得				1	1
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			13,951	1	13,950
当期末残高	10,374	16,254	129,640	127	156,142

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	678	14,304	93		13,719	796	129,268
当期変動額							
剰余金の配当							6,320
当期純利益							20,271
自己株式の取得							1
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	1,635		92		1,728	118	1,847
当期変動額合計	1,635		92		1,728	118	15,797
当期末残高	2,314	14,304	0		11,991	915	145,066

当連結会計年度(自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,374	16,254	129,640	127	156,142
当期変動額					
剰余金の配当			7,426		7,426
当期純利益			23,455		23,455
連結範囲の変動			107		107
土地再評価差額金の取崩			235		235
自己株式の取得				8	8
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			15,686	8	15,678
当期末残高	10,374	16,254	145,326	135	171,820

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,314	14,304	0		11,991	915	145,066
当期変動額							
剰余金の配当							7,426
当期純利益							23,455
連結範囲の変動							107
土地再評価差額金の取崩							235
自己株式の取得							8
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	660	235	53	2,499	3,447	155	3,602
当期変動額合計	660	235	53	2,499	3,447	155	19,281
当期末残高	2,974	14,069	52	2,499	8,543	1,070	164,347

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	33,049	37,910
減価償却費	5,454	5,286
減損損失	259	6
貸倒引当金の増減額(は減少)	756	253
受取利息及び受取配当金	123	121
支払利息	65	62
持分法による投資損益(は益)	55	174
関係会社清算損益(は益)	-	223
受取補償金	32	52
固定資産除却損	166	118
固定資産売却損益(は益)	-	337
売上債権の増減額(は増加)	12,377	1,664
たな卸資産の増減額(は増加)	4,148	1,002
仕入債務の増減額(は減少)	8,078	2,558
投資有価証券売却損益(は益)	105	29
投資有価証券評価損益(は益)	54	77
その他	1,152	3,827
小計	32,305	46,879
利息及び配当金の受取額	171	190
利息の支払額	65	63
補償金の受取額	32	52
法人税等の支払額	13,663	12,929
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,780	34,130
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,562	1,907
有形固定資産の売却による収入	-	494
ソフトウェアの取得による支出	3,014	5,180
投資有価証券の取得による支出	166	22
投資有価証券の売却による収入	120	30
投資有価証券の償還による収入	1,000	-
子会社の清算による収入	-	1,273
長期貸付けによる支出	219	7
長期貸付金の回収による収入	81	26
その他	291	117
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,468	5,410
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	200	100
配当金の支払額	6,320	7,425
その他	40	55
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,561	7,580
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	8,750	21,140
現金及び現金同等物の期首残高	68,113	76,863
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	60
現金及び現金同等物の期末残高	76,863	97,943

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

連結子会社の名称

(株)OSK

(株)アルファシステム

(株)ネットワークド

(株)アルファテクノ

(株)アルファネット

大塚オートサービス(株)

連結の範囲から除外した子会社欧智卡信息系统商貿(上海)有限公司他2社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていません。

また、前連結会計年度において連結子会社であった(株)ネットプランは、業務縮小により重要性が低下したため、当連結会計年度の期首より連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 2社

会社等の名称

大塚資訊科技(股)有限公司

(株)ライオン事務器

決算日と連結決算日との差異がある(株)ライオン事務器については、連結決算日直近となる中間決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、持分法適用上必要な修正を行っております。

持分法の範囲から除外した非連結子会社欧智卡信息系统商貿(上海)有限公司他2社及び関連会社日本ナレッジ(株)他5社は、いずれも小規模であり、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日はすべて連結決算日と同一であります。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

デリバティブ

時価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

商品

主として移動平均法

仕掛品

個別法

原材料及び貯蔵品

主として移動平均法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 15～50年

その他 4～10年

無形固定資産(リース資産を除く)

市場販売目的のソフトウェア

見込販売金額に基づき、当連結会計年度の販売金額に対応する金額を償却しております。ただし、毎期の償却額は残存有効期間(見込有効期間3年以内)に基づく均等配分額を下回らないこととしております。

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間(主として5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェア等に係る収益及び費用の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるもの

工事進行基準(原則として、工事の進捗率の見積りは原価比例法)

その他のもの

工事完成基準

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を、退職給付に係る資産または退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を、退職給付に係る資産または退職給付に係る負債に計上いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る資産が53億89百万円、退職給付に係る負債が25億33百万円計上されております。また、その他の包括利益累計額が24億99百万円増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)
- ・「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)
- ・「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成25年9月13日)
- ・「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成25年9月13日)

(1) 概要

本会計基準等は、子会社株式の追加取得等において支配が継続している場合の子会社に対する親会社の持分変動の取扱い、取得関連費用の取扱い、当期純利益の表示及び少数株主持分から非支配株主持分への変更、暫定的な会計処理の取扱いを中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

平成28年12月期の期首より適用予定です。なお、暫定的な会計処理の取扱いについては、平成28年12月期の期首以後実施される企業結合から適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年12月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「為替差益」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた337百万円は、「為替差益」45百万円、「その他」291百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社及び関連会社に対する主なものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
投資有価証券(株式)	2,163百万円	2,314百万円
投資有価証券(出資金)	217	217

2. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は、次のとおりであります。

(イ) 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
定期預金	5百万円	5百万円

(ロ) 上記に対応する債務

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
支払手形及び買掛金	5百万円	5百万円

3. 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、再評価差額から再評価に係る繰延税金負債を控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める路線価及び路線価のない土地は第2条第3号に定める固定資産税評価額に基づき、奥行き価格補正等の合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 平成13年12月31日

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	738百万円	637百万円

4. 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しています。連結会計年度末日満期手形は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
受取手形	356百万円	586百万円
支払手形	1	2

(連結損益計算書関係)

1. 研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費	335百万円	503百万円

2. 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
土地	百万円	56百万円

3. 固定資産売却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
建物及び構築物	百万円	289百万円
土地		104
計		393

4. 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
建物及び構築物	48百万円	64百万円
有形固定資産その他	65	34
ソフトウェア	2	19
無形固定資産その他	50	
計	166	118

5. 特別損失に計上している貸倒引当金繰入額は、すべて関係会社に対するものであります。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	2,466百万円	1,029百万円
組替調整額	54	0
税効果調整前	2,520	1,029
税効果額	891	366
その他有価証券評価差額金	1,628	662
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	99	51
組替調整額		
持分法適用会社に対する 持分相当額	99	51
土地再評価差額金		
当期発生額		187
組替調整額		
税効果調整前		187
税効果額		47
土地再評価差額金		235
その他の包括利益合計	1,728	948

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式	31,667			31,667

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式(注)	65	0		66

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年3月27日 定時株主総会	普通株式	6,320	200.00	平成24年12月31日	平成25年3月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年3月27日 定時株主総会	普通株式	7,426	利益剰余金	235.00	平成25年12月31日	平成26年3月28日

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式(注)	31,667	63,334		95,001

(注) 当社は、平成26年7月1日を効力発生日として、1株につき3株の割合で株式分割を実施しております。普通株式の発行済株式の株式数の増加は、当該株式分割によるものであります。

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式(注)	66	133		199

(注) 当社は、平成26年7月1日を効力発生日として、1株につき3株の割合で株式分割を実施しております。普通株式の自己株式の株式数の増加は、当該株式分割により増加した132千株に、株式分割後に単元未満株式の買取により増加した1千株を加えたものであります。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年3月27日 定時株主総会	普通株式	7,426	235.00	平成25年12月31日	平成26年3月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年3月27日 定時株主総会	普通株式	8,532	利益剰余金	90.00	平成26年12月31日	平成27年3月30日

(注) 当社は、平成26年7月1日を効力発生日として、1株につき3株の割合で株式分割を実施しております。これに伴い、基準日が平成26年12月31日の1株当たり配当額については、株式分割後の金額を記載しております。なお、株式分割を考慮しない場合の当該1株当たり配当額は270円となります。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
現金及び預金	69,347百万円	90,234百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	55	55
取得日から3ヶ月以内に満期又は 償還期限の到来する有価証券	5,700	5,900
その他流動資産に含まれる運用 期間が3ヶ月以内の信託受益権	1,871	1,864
現金及び現金同等物	76,863	97,943

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
1年内	547百万円	628百万円
1年超	815	719
合計	1,363	1,347

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとに与信管理を徹底し、回収期日や残高を定期的に管理することで、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業等の株式であります。主に債券や上場株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を分析・把握することで回収可能性の確保や減損懸念の軽減を図っております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、ほぼ3ヶ月以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金に係る資金調達であります。

また、これら支払手形及び買掛金、電子記録債務、借入金、未払法人税等の金銭債務は、流動性リスクに晒されておりますが、資金繰計画を作成する等の方法により管理しております。

デリバティブ取引は、一部の連結子会社の為替予約取引であり、執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従うこととしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成25年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	69,347	69,347	
(2) 受取手形及び売掛金	99,664	99,664	
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	5,700	5,700	
その他有価証券	4,818	4,818	
関連会社株式	1,017	4,585	3,568
資産計	180,547	184,115	3,568
(4) 支払手形及び買掛金	70,509	70,509	
(5) 電子記録債務	14,546	14,546	
(6) 短期借入金	6,950	6,950	
(7) 未払法人税等	7,034	7,034	
負債計	99,041	99,041	
デリバティブ取引(*)	45	45	

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

当連結会計年度(平成26年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	90,234	90,234	
(2) 受取手形及び売掛金	98,066	98,066	
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	5,900	5,900	
その他有価証券	5,868	5,868	
関連会社株式	1,105	3,337	2,231
資産計	201,175	203,406	2,231
(4) 支払手形及び買掛金	67,066	67,066	
(5) 電子記録債務	15,389	15,389	
(6) 短期借入金	6,850	6,850	
(7) 未払法人税等	8,007	8,007	
負債計	97,313	97,313	
デリバティブ取引(*)	123	123	

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 電子記録債務、(6) 短期借入金、(7) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成25年12月31日	平成26年12月31日
非上場株式等	1,690	1,675
投資事業有限責任組合等への出資	57	20

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成25年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	69,347			
受取手形及び売掛金	99,664			
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券(譲渡 性預金)	5,700			
合計	174,711			

当連結会計年度(平成26年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	90,234			
受取手形及び売掛金	98,066			
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券(譲渡 性預金)	5,900			
合計	194,200			

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成25年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
短期借入金	6,950			

当連結会計年度(平成26年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
短期借入金	6,850			

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成25年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等			
	(2) 社債			
	(3) その他			
	小計			
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等			
	(2) 社債			
	(3) その他	5,700	5,700	
	小計	5,700	5,700	
合計		5,700	5,700	

当連結会計年度(平成26年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等			
	(2) 社債			
	(3) その他			
	小計			
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等			
	(2) 社債			
	(3) その他	5,900	5,900	
	小計	5,900	5,900	
合計		5,900	5,900	

3. その他有価証券

前連結会計年度(平成25年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	4,673	1,147	3,525
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他			
	(3) その他	126	73	52
	小計	4,799	1,221	3,578
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	18	21	2
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他			
	(3) その他			
	小計	18	21	2
	合計	4,818	1,242	3,575

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額328百万円)及び投資事業有限責任組合等への出資(連結貸借対照表計上額57百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成26年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	5,714	1,164	4,550
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他			
	(3) その他	130	73	57
	小計	5,845	1,237	4,607
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	23	26	2
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他			
	(3) その他			
	小計	23	26	2
	合計	5,868	1,264	4,604

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額249百万円)及び投資事業有限責任組合等への出資(連結貸借対照表計上額20百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(1) 株式	120	105	
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
(3) その他			
合計	120	105	

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(1) 株式	30	29	
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
(3) その他			
合計	30	29	

5. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券の株式について54百万円減損処理を行っております。

当連結会計年度において、その他有価証券の株式について77百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成25年12月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建 米ドル	1,213		45	45
合計		1,213		45	45

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成26年12月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建 米ドル	2,245		123	123
合計		2,245		123	123

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、退職給付型の制度として、確定拠出年金、規約型確定給付企業年金及び退職一時金制度を設けており、確定拠出年金については7社、規約型確定給付企業年金については4社が加入し、退職一時金制度については5社が有しております。

また、連結子会社中1社は総合設立型基金に加入しております。

なお、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務に関する事項

(百万円)

(1) 退職給付債務(注)	36,011
(2) 年金資産	39,372
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2)	3,360
(4) 未認識数理計算上の差異	1,480
(5) 未認識過去勤務債務(債務の減額)	2,508
(6) 連結貸借対照表計上額純額(3) + (4) + (5)	628
(7) 前払年金費用	1,660
(8) 退職給付引当金(6) - (7)	2,288

(注) 当社及び連結子会社中2社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

(百万円)

退職給付費用	3,298
(1) 勤務費用(注)	2,287
(2) 利息費用	522
(3) 期待運用収益(減算)	182
(4) 過去勤務債務の費用処理額	812
(5) 数理計算上の差異の費用処理額	444
(6) 確定拠出年金への掛金支払額	800
(7) 臨時に支払った割増退職金	239

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「(1) 勤務費用」に計上しております。

4．退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 割引率

1.5%

(2) 期待運用収益率

0.5%

(3) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(4) 過去勤務債務の処理年数

12年

(5) 数理計算上の差異の処理年数

翌連結会計年度より11年～12年

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、退職給付型の制度として、確定拠出年金、規約型確定給付企業年金及び退職一時金制度を設けており、確定拠出年金については6社、規約型確定給付企業年金については3社が加入し、退職一時金制度については5社が有しております。

当社及び一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

また、連結子会社中1社は、複数事業主制度の厚生年金基金制度に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度については、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

なお、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

退職給付債務の期首残高	35,078	百万円
勤務費用	2,037	"
利息費用	526	"
数理計算上の差異の発生額	178	"
退職給付の支払額	942	"
退職給付債務の期末残高	36,522	"

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	39,372	百万円
期待運用収益	196	"
数理計算上の差異の発生額	473	"
事業主からの拠出額	1,225	"
退職給付の支払額	897	"
年金資産の期末残高	40,370	"

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	932	百万円
退職給付費用	112	"
退職給付の支払額	52	"
退職給付に係る負債の期末残高	992	"

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	34,980	百万円
年金資産	40,370	"
	5,389	"
非積立型制度の退職給付債務	2,533	"
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,856	"
退職給付に係る負債	2,533	"
退職給付に係る資産	5,389	"
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,856	"

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	2,037	百万円
利息費用	526	"
期待運用収益	196	"
数理計算上の差異の費用処理額	60	"
過去勤務費用の費用処理額	792	"
簡便法で計算した退職給付費用	112	"
臨時に支払った割増退職金	328	"
確定給付制度に係る退職給付費用	2,076	"

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識過去勤務費用	1,716	百万円
未認識数理計算上の差異	2,192	"
合計	3,909	"

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	37%
現金及び預金	63%
合計	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	1.5%
長期期待運用収益率	0.5%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、798百万円でありました。

4. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、53百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況（平成26年3月31日現在）

年金資産の額	252,293	百万円
年金財政計算上の給付債務の額	227,330	"
差引額	24,963	"

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合（平成26年3月31日現在）

0.4%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、別途積立金19,332百万円及び当年度剰余金5,630百万円であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	362百万円	84百万円
未払事業税等	704	685
賞与引当金	1,178	1,115
退職給付引当金	824	
退職給付に係る負債		910
役員退職慰労引当金	191	208
減損損失	1,028	891
ソフトウェア開発費	1,407	1,263
固定資産未実現利益	299	297
その他	1,960	1,827
小計	7,958	7,284
評価性引当額	1,604	1,389
繰延税金資産合計	6,354	5,894
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,255	1,622
前払年金費用	592	
退職給付に係る資産		1,922
その他	91	103
繰延税金負債合計	1,939	3,647
繰延税金資産の純額	4,415	2,246

繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	3,521百万円	2,969百万円
固定資産 - 繰延税金資産	1,394	1,338
流動負債 - その他	1	1
固定負債 - 繰延税金負債	499	2,059

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

(前連結会計年度)

法定実効税率(38.0%)と税効果会計適用後の法人税等の負担率(38.2%)との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(当連結会計年度)

法定実効税率(38.0%)と税効果会計適用後の法人税等の負担率(37.6%)との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成27年1月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、前連結会計年度の38.0%から35.6%に変更されております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、情報システムの構築・稼働までを事業領域とする「システムインテグレーション事業」と、システム稼働後のサポートを事業領域とする「サービス&サポート事業」を主な事業としております。

従って、当社は「システムインテグレーション事業」及び「サービス&サポート事業」を報告セグメントとしております。

具体的な事業内容としては、次のとおりであります。「システムインテグレーション事業」は、コンサルティングからシステム設計・開発・搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供しております。「サービス&サポート事業」は、サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。また、報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメント間の内部取引は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	システムイン テグレーション 事業	サービス& サポート事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	332,067	231,868	563,936	658	564,595		564,595
セグメント間の内部売上高 又は振替高	69	478	547	1,555	2,103	2,103	
計	332,137	232,347	564,484	2,214	566,698	2,103	564,595
セグメント利益	31,599	10,000	41,599	59	41,659	7,758	33,901
セグメント資産	111,802	82,063	193,866	1,402	195,268	84,320	279,589
その他の項目							
減価償却費(注4)	2,937	1,898	4,836	14	4,850	603	5,454
持分法適用会社への投資額	623	1,037	1,661		1,661		1,661
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額(注4)	2,427	1,441	3,869		3,869	707	4,576

(注) 1. その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル保守管理、自動車整備、保険等の事業を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 7,758百万円には、主として、各報告セグメントに配分していない全社費用 7,783 百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。
- (2) セグメント資産の調整額84,320百万円には、主として、全社資産85,570百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の余資運用資金(現金及び預金、投資有価証券)及び親会社の管理部門に係る資産であります。
- (3) その他の項目の減価償却費の調整額603百万円は、主に全社資産に係る減価償却費であります。有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額707百万円は、主に全社資産に係る増加額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の項目の減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用に係る金額が含まれております。

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	システムイン テグレーション 事業	サービス& サポート事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	362,068	243,316	605,384	381	605,766		605,766
セグメント間の内部売上高 又は振替高	97	398	496	140	637	637	
計	362,166	243,714	605,880	522	606,403	637	605,766
セグメント利益	34,284	10,387	44,672	57	44,729	7,631	37,097
セグメント資産	111,392	88,461	199,853	784	200,638	104,874	305,513
その他の項目							
減価償却費(注4)	2,732	1,989	4,722	13	4,736	550	5,286
持分法適用会社への投資額	711	1,101	1,812		1,812		1,812
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額(注4)	3,710	2,834	6,545	5	6,550	537	7,088

(注) 1. その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車整備、保険等の事業を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 7,631百万円には、主として、各報告セグメントに配分していない全社費用 7,647百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。
- (2) セグメント資産の調整額104,874百万円には、主として、全社資産104,924百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の余資運用資金(現金及び預金、投資有価証券)及び親会社の管理部門に係る資産であります。
- (3) その他の項目の減価償却費の調整額550百万円は、主に全社資産に係る減価償却費であります。有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額537百万円は、主に全社資産に係る増加額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の項目の減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用に係る金額が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	
1株当たり純資産額	1,520.53円	1株当たり純資産額	1,722.31円
1株当たり当期純利益金額	213.83円	1株当たり当期純利益金額	247.41円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、平成26年7月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額を算定しております。
3. 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。
- この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が、26円36銭増加しております。
4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	145,066	164,347
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	915	1,070
(うち少数株主持分(百万円))	(915)	(1,070)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	144,150	163,277
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	94,802	94,801

5. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
当期純利益(百万円)	20,271	23,455
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	20,271	23,455
期中平均株式数(千株)	94,802	94,801

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	6,950	6,850	0.79	
1年以内に返済予定の長期借入金				
1年以内に返済予定のリース債務	708	960		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)				
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,412	1,774		平成28年～平成33年
その他有利子負債				
計	9,070	9,584		

- (注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。
2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	808	529	330	102

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	176,894	332,411	463,210	605,766
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	12,489	24,873	28,997	37,910
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	7,508	15,016	17,454	23,455
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	79.20	158.40	184.11	247.41

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	79.20	79.20	25.71	63.30

(注) 当社は、平成26年7月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。そのため、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 66,781	1 86,739
受取手形	3 3,564	3 3,383
売掛金	86,285	84,408
有価証券	5,000	5,000
商品	17,850	16,582
仕掛品	845	887
原材料及び貯蔵品	819	782
前渡金	3,889	4,170
繰延税金資産	2,945	2,422
未収入金	7,194	7,695
その他	4,025	4,165
貸倒引当金	381	138
流動資産合計	198,820	216,098
固定資産		
有形固定資産		
建物	23,582	22,173
土地	16,620	16,352
その他	3,114	3,346
有形固定資産合計	43,316	41,872
無形固定資産		
ソフトウェア	4,171	7,282
その他	42	42
無形固定資産合計	4,214	7,325
投資その他の資産		
投資有価証券	5,184	6,119
関係会社株式	5,627	4,577
差入保証金	1,862	1,957
その他	3,808	3,859
貸倒引当金	422	297
投資その他の資産合計	16,060	16,216
固定資産合計	63,591	65,414
資産合計	262,411	281,513

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	3 130	3 188
電子記録債務	14,546	15,389
買掛金	1 66,346	1 62,384
短期借入金	5,600	5,600
リース債務	681	945
未払金	7,316	8,570
未払法人税等	6,200	7,150
前受金	6,491	6,856
預り金	8,242	9,545
賞与引当金	2,725	2,716
その他	4,017	6,787
流動負債合計	122,299	126,134
固定負債		
リース債務	1,372	1,768
繰延税金負債	433	558
再評価に係る繰延税金負債	189	142
退職給付引当金	521	556
役員退職慰労引当金	366	410
資産除去債務	217	212
その他	478	571
固定負債合計	3,579	4,220
負債合計	125,879	130,355
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,374	10,374
資本剰余金		
資本準備金	16,254	16,254
資本剰余金合計	16,254	16,254
利益剰余金		
利益準備金	2,593	2,593
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	17	17
別途積立金	57,350	57,350
繰越利益剰余金	62,053	75,789
利益剰余金合計	122,015	135,751
自己株式	127	135
株主資本合計	148,517	162,244
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,319	2,981
土地再評価差額金	14,304	14,069
評価・換算差額等合計	11,984	11,087
純資産合計	136,532	151,157
負債純資産合計	262,411	281,513

【損益計算書】

	(単位：百万円)	
	前事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
売上高	521,623	558,450
売上原価	407,422	437,647
売上総利益	114,200	120,802
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	35,633	36,669
役員報酬	388	377
福利厚生費	5,445	5,700
賃借料	5,056	5,549
運送費及び保管費	13,844	15,297
賞与引当金繰入額	1,872	1,876
退職給付費用	1,957	1,762
役員退職慰労引当金繰入額	44	44
貸倒引当金繰入額	10	22
減価償却費	3,227	3,423
その他	16,151	16,882
販売費及び一般管理費合計	83,631	87,606
営業利益	30,569	33,196
営業外収益		
受取利息	50	42
受取配当金	296	356
受取家賃	269	244
リサイクル収入	104	212
貸倒引当金戻入額	159	148
その他	230	190
営業外収益合計	1,111	1,196
営業外費用		
支払利息	69	69
為替差損	67	28
その他	12	0
営業外費用合計	150	99
経常利益	31,530	34,293

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	-	56
関係会社清算益	-	223
投資有価証券売却益	105	29
受取補償金	32	52
その他	0	-
特別利益合計	138	363
特別損失		
固定資産売却損	-	400
固定資産除却損	132	114
減損損失	240	6
投資有価証券評価損	-	77
貸倒引当金繰入額	94	-
その他	18	0
特別損失合計	486	599
税引前当期純利益	31,182	34,057
法人税、住民税及び事業税	11,542	12,426
法人税等調整額	63	233
法人税等合計	11,479	12,659
当期純利益	19,703	21,397

【売上原価明細書】

(イ) システムインテグレーション売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)		当事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
期首商品たな卸高			8,033		12,006
当期商品仕入高			215,280		230,424
受託ソフト原価					
1. 外注加工費		12,401	54.1	13,567	56.3
2. 労務費	2	8,661	37.8	8,694	36.0
3. 経費	3	1,856	8.1	1,852	7.7
当期総製造費用		22,919	100.0	24,114	100.0
期首仕掛品たな卸高		611		845	
計		23,530		24,960	
期末仕掛品たな卸高		845	22,685	887	24,072
合計			245,999		266,503
期末商品たな卸高			12,006		10,568
システムインテグレーション売上原価			233,992		255,935

労務費・経費につきましては、予定原価を適用し、原価差額については期末において調整計算を行っております。

(脚注)

前事業年度	当事業年度
1. 原価計算の方法は、個別原価計算によるおります。	1. 同左
2. 労務費の主な内訳は、次のとおりであります。 給料手当及び賞与 7,014百万円 福利厚生費 951 賞与引当金繰入額 349 退職給付費用 345	2. 労務費の主な内訳は、次のとおりであります。 給料手当及び賞与 7,102百万円 福利厚生費 967 賞与引当金繰入額 344 退職給付費用 281
3. 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 業務委託費 527百万円 修繕維持費 346 賃借料 318	3. 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 業務委託費 547百万円 修繕維持費 346 賃借料 311

(ロ) サービス&サポート売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)		当事業年度 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
期首商品たな卸高			5,252		5,844
当期商品仕入高			100,249		105,238
保守等原価					
1. 保守部品費	1	5,555	7.5	5,514	7.2
2. 支払手数料		11,799	16.0	12,178	15.9
3. 外注加工費		37,638	51.0	39,935	52.1
4. 労務費	2	12,454	16.9	12,515	16.3
5. 経費	3	6,325	8.6	6,498	8.5
当期総製造費用		73,772	73,772	76,642	76,642
合計			179,274		187,725
期末商品たな卸高			5,844		6,013
サービス& サポート売上原価			173,430		181,712

(脚注)

前事業年度	当事業年度
1. 保守部品費にはホテルの食材費509百万円を含めております。	1. 保守部品費にはホテルの食材費525百万円を含めております。
2. 労務費の主な内訳は、次のとおりであります。 給料手当及び賞与 10,086百万円 福利厚生費 1,368 賞与引当金繰入額 503 退職給付費用 496	2. 労務費の主な内訳は、次のとおりであります。 給料手当及び賞与 10,223百万円 福利厚生費 1,391 賞与引当金繰入額 495 退職給付費用 404
3. 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 業務委託費 1,796百万円 修繕維持費 1,178 賃借料 1,086	3. 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 業務委託費 1,919百万円 修繕維持費 1,214 賃借料 1,094

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	10,374	16,254	16,254
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			
当期変動額合計			
当期末残高	10,374	16,254	16,254

	株主資本				
	利益剰余金				
	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
固定資産 圧縮積立金		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,593	17	57,350	48,670	108,631
当期変動額					
剰余金の配当				6,320	6,320
当期純利益				19,703	19,703
自己株式の取得					
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					
当期変動額合計				13,383	13,383
当期末残高	2,593	17	57,350	62,053	122,015

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	126	135,134	689	14,304	13,614	121,520
当期変動額						
剰余金の配当		6,320				6,320
当期純利益		19,703				19,703
自己株式の取得	1	1				1
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			1,629		1,629	1,629
当期変動額合計	1	13,382	1,629		1,629	15,011
当期末残高	127	148,517	2,319	14,304	11,984	136,532

当事業年度(自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	10,374	16,254	16,254
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
土地再評価差額金の取崩			
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			
当期変動額合計			
当期末残高	10,374	16,254	16,254

	株主資本				
	利益剰余金				利益剰余金合計
	利益準備金	その他利益剰余金			
固定資産 圧縮積立金		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,593	17	57,350	62,053	122,015
当期変動額					
剰余金の配当				7,426	7,426
当期純利益				21,397	21,397
土地再評価差額金の取崩				235	235
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計				13,735	13,735
当期末残高	2,593	17	57,350	75,789	135,751

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	127	148,517	2,319	14,304	11,984	136,532
当期変動額						
剰余金の配当		7,426				7,426
当期純利益		21,397				21,397
土地再評価差額金の取崩		235				235
自己株式の取得	8	8				8
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			662	235	897	897
当期変動額合計	8	13,727	662	235	897	14,625
当期末残高	135	162,244	2,981	14,069	11,087	151,157

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

商品

移動平均法

仕掛品

個別法

原材料及び貯蔵品

主として移動平均法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15～50年

その他 4～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

市場販売目的のソフトウェア

見込販売金額に基づき、当事業年度の販売金額に対応する金額を償却しております。ただし、毎期の償却額は残存有効期間(見込有効期間3年以内)に基づく均等配分額を下回らないこととしております。

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間(主として5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(12年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(12年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェア等に係る収益及び費用の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるもの

工事進行基準(原則として、工事の進捗率の見積りは原価比例法)

その他のもの

工事完成基準

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条の2に定める減価償却累計額に減損損失累計額が含まれている旨の注記については、同条第5項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第42条に定める事業用土地の再評価に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。

(イ) 担保に供している資産

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
定期預金	5百万円	5百万円

(ロ) 上記に対応する債務

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
買掛金	5百万円	5百万円

2. 関係会社に対する主な資産及び負債

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
短期金銭債権	1,955百万円	2,110百万円
長期金銭債権	192	155
短期金銭債務	10,880	11,169
長期金銭債務	24	

3. 期末日満期手形の会計処理については、当期末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
受取手形	324百万円	528百万円
支払手形	1	2

(損益計算書関係)

関係会社との取引に係るものが、次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
売上高	5,860百万円	5,472百万円
仕入高	40,336	42,024
販売費及び一般管理費	7,252	6,450
営業取引以外の取引高	1,044	871

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(平成25年12月31日)

(単位:百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式			
関連会社株式	703	4,585	3,882

当事業年度(平成26年12月31日)

(単位:百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式			
関連会社株式	703	3,337	2,633

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位:百万円)

区分	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
子会社株式	3,770	2,721
関連会社株式	1,153	1,153
計	4,924	3,874

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	190百万円	116百万円
未払事業税等	613	609
賞与引当金	1,035	968
退職給付引当金	185	198
役員退職慰労引当金	130	146
減損損失	964	891
ソフトウェア開発費	801	795
その他	1,404	1,312
小計	5,327	5,037
評価性引当額	983	1,052
繰延税金資産合計	4,344	3,985
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,255	1,622
前払年金費用	554	478
その他	21	20
繰延税金負債合計	1,831	2,121
繰延税金資産の純額	2,512	1,864

繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	2,945百万円	2,422百万円
固定負債 - 繰延税金負債	433	558

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

(前事業年度)

法定実効税率(38.0%)と税効果会計適用後の法人税等の負担率(36.8%)との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(当事業年度)

法定実効税率(38.0%)と税効果会計適用後の法人税等の負担率(37.2%)との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成27年1月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の38.0%から35.6%に変更されております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	23,582	510	598	1,321	22,173	40,357
	土地	16,620 [14,114]	4	272 [187]		16,352 [13,926]	
	その他	3,114	1,412	67	1,112 (6)	3,346	11,290
	計	43,316	1,927	937	2,434 (6)	41,872	51,647
無形固定資産	ソフトウェア	4,171	4,736	19	1,605	7,282	
	その他	42				42	
	計	4,214	4,736	19	1,605	7,325	

- (注) 1. 「当期償却額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。
2. 「当期首残高」及び「当期末残高」欄の[]内は内書で、土地再評価差額(税効果考慮前)の残高であります。また、「当期減少額」欄の[]内は内書で、土地の売却によるものであります。
3. 「減価償却累計額」欄には減損損失累計額が含まれております。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	804	243	612	435
賞与引当金	2,725	2,716	2,725	2,716
役員退職慰労引当金	366	44		410

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。ホームページアドレスは次のとおりです。 http://www.otsuka-shokai.co.jp/corporate/ir/stocks/public_notice/index.html
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- 1 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- 2 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- 3 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書の提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第53期(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)平成26年3月27日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成26年3月27日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第54期第1四半期(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)平成26年5月13日関東財務局長に提出

第54期第2四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)平成26年8月11日関東財務局長に提出

第54期第3四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)平成26年11月12日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく
臨時報告書

平成26年3月31日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年3月27日

株式会社大塚商会
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	白	羽	龍	三
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	狩	野	茂	行
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	江	下		聖

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社大塚商会の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社大塚商会及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社大塚商会の平成26年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社大塚商会が平成26年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年3月27日

株式会社大塚商会
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	白	羽	龍	三
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	狩	野	茂	行
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	江	下		聖

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社大塚商会の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの第54期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社大塚商会の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。